



2019年3月4日

「昭和電工ドーム大分」除幕式を開催

昭和電工株式会社（社長：森川 宏平）は、ネーミングライツ（命名権）取得した大分スポーツ公園内の総合競技場「昭和電工ドーム大分」にて、当施設をホームグラウンドとするJ1チーム「大分トリニータ」のホーム開幕戦が行われた3月2日に除幕式を開催しました。当社は2019年3月1日より5年間、大分スポーツ公園内の7施設のネーミングライツを取得し、各施設に当社名を付与します。

命名権料の一部は、地域貢献・スポーツ振興事業（パートナーシップ事業）に充当され、同県のスポーツ振興への寄与と地域社会の活性化に役立てられます。当社グループは、全てのステークホルダーに貢献する「社会貢献企業」の実現を目指し、CSR（企業の社会的責任）を果たすべくさまざまな取り組みを進めてきました。今後も、工場見学会の開催や地域の学校のインターンシップ生の受け入れなどを通じ、地域社会との対話を進めてまいります。

ネーミングライツの対象施設

【施設の名称】

① 総合競技場

② テニスコート

③ サブ競技場

④ サッカー・ラグビー場

⑤ 野球場

⑥ 投てき場

⑦ 武道スポーツセンター

【愛称】

「昭和電工ドーム大分」

（英文表記 SHOWA DENKO DOME OITA）

「昭和電工テニスコート」

「昭和電工グラウンド」

「昭和電工サッカー・ラグビー場」

「昭和電工スタジアム」

「昭和電工フィールド」

「昭和電工武道スポーツセンター」

除幕式の様子



※ 写真右が広瀬勝貞大分県知事、左が市川秀夫昭和電工会長

以上